

会長の時間 第 15 回 三つの機会の扉の展開

日出ロータリークラブ

会長 加賀山 茂

はじめに

これまでの会長の時間で、私は、ロータリークラブの基本的な理念について、「四つのテスト」の意味 (第 1 回)、「ロータリーの目的」の意味 (第 2 回)、「五大奉仕部門」(第 3 回)、「公平とは何か」について、タクシーの相乗りの場合の料金の公平な負担について検討させていただき (第 5 回)、「微笑みを微笑みで返す」とか「いただいたら、お返しする」とかという共感脳の抱える「やられたら、やり返す」というジレンマについて (第 6 回)、偽りの親睦と四つのテストの関係 (第 7 回)、新型コロナウイルス感染症対策 (第 8 回)、善行とは何か (第 9 回)、善行褒章とその基準 (第 10 回)、善行褒章基準の日独比較 (第 11 回)、子ども食堂 (第 12 回)、地方創生 (第 13 回)、コロナ禍における国民の三大義務の支援について話しました。



そして、いずれの回においても、本年度の RI 会長 (Holger Knaack 氏) のテーマである「ロータリーは機会の扉を開く」を活用させていただき、3つの扉の色に即して、**赤い扉**は、「親睦 (和らぎ睦び)」として、**黄色の扉**は、「職業倫理の向上」として、**青の扉**は、「次世代への奉仕活動の実践」として整理させていただきました。

今回は、これまでの会長の時間で取り上げた 3 つの機会の扉の応用についてまとめてみたいと思います。

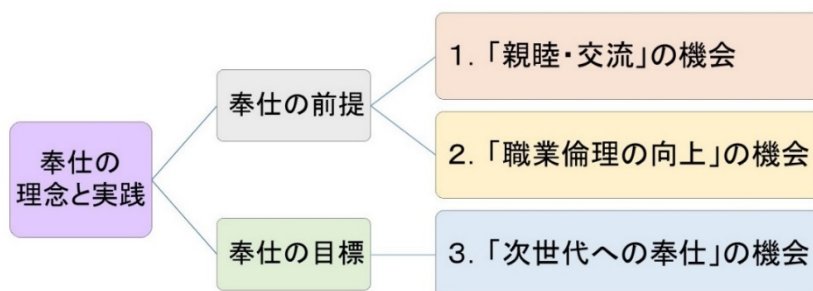
1. 加賀山年度の会長のテーマ

十七条の憲法第 1 条の後半部分にある、「和の精神」を見事に表現した部分、すなわち、「^{かみやわ}上和らぎ、^{しもむつ}下睦びて、事を論じるに^{かな}諧うときは、すなわち、^{じりおの}事理自ずから^{つう}通ず、^{なにごと}何事か^な成らざらん。」を引用して、親睦を踏まえて、平和的な議論を通じて職業倫理の向上に努め、それらを前提にして、ロータリークラブの最も大切な奉仕活動を、青少年の奉仕活動に焦点を当てて行なおう、というのが、今年度の日出ロータリークラブ会長のテーマです。

そのことを、ホルガー・クナーク (Holger Knaack) RI 会長のテーマである、「ロータリーは機会の扉を開く」を具現化した、上記の三色の扉を使わせてもらって、うまく表現することに努めました。

交通信号が赤、黄、青の三色を使っているのは、人間の脳は、この三色の色に即して、瞬時に判断が可能であるとの科学的な知識に基づいているとのことです。もしも、交通信号が、

和らぎ睦びて事を論じ、次世代への奉仕活動を実践しよう



四色が増えていたら、瞬時の判断にためらいが生じ、交通事故が増える可能性があるのだそうです。

そこで、私は、会長の時間において、ロータリークラブの基本理念とか、重要用語を取り

り上げる場合には、いつも、この三色の扉を使って説明することを試みることにしました。

2. 四つのテスト

ロータリーの基本理念とか、重要用語には、ほぼ、4つ以上の概念が使われています。四つのテストはもちろんのこと、ロータリーの目的も四つの項目が掲げられていますし、奉仕については、五大奉仕部門と5つに拡大されています。ロータリーの補助金の重点領域は、六つの重点分野とされて、さらに数が増えています。そこで、これらのロータリーの重要な考え方を、すべて、三色の扉で表現しようとする、それなりの工夫が必要です。

最初に、四つのテストを三つの扉に収める工夫をしてみました。

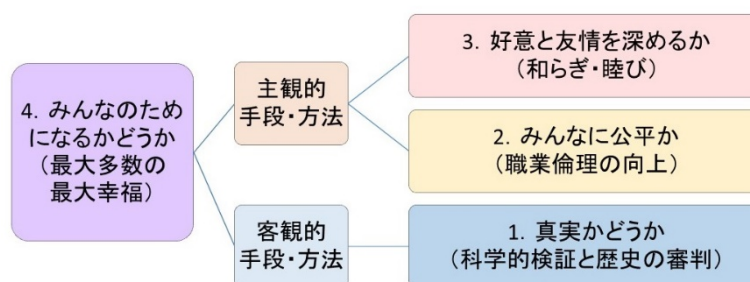
確かに、四つのテストのうち、「みんな」という言葉が重なっている第2の「みんなに公平か」と第4の「みんなのためになるかどうか」を一つにまとめると、三つの扉に収めることができます。しかし、それでは、四つのテストはなりません。

そこで、第4の「みんなのためになるかどうか」について、全体をまとめる概念として、最初に取り出して、

その他の三つの概念を、親睦の赤、職業倫理の向上を示すゴールド、クールを表す青に振り分けてみました。

そうすると、四つのテストを、三つの扉にうまく収めることができました。

四つのテスト



3. ロータリークラブの目的

ロータリーの目的は、以下の四つにまとめられています。

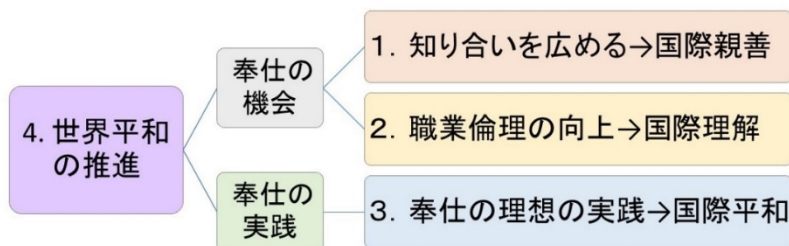
第1：知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。

第2：職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする。

第3：ロータリアン一人ひとりが、個人として、また、事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。

第4：奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、国際親善、国際平和を推進すること。

ロータリークラブの目的



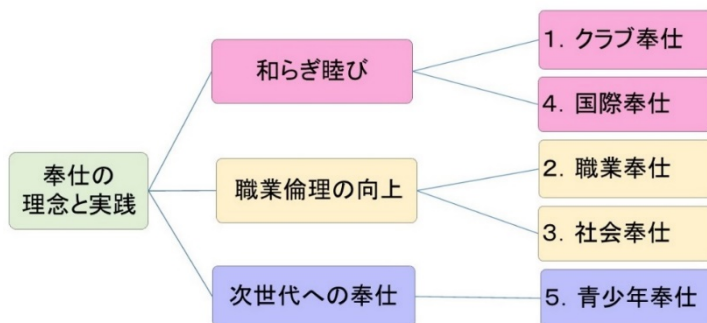
この四つの最終目標である国際平和の推進を全体の目標として取り出すと、残りを、日出ロータリークラブ会長のテーマである赤の「親善」、ゴールドの「職業倫理の向上」、青を「奉仕の理念の実践」として、三色の機会の扉としてまとめることができました。

4. 五大奉仕部門

五大奉仕部門については、今年度の日出ロータリークラブの会長のテーマである、三つの機会の扉、すなわち、赤の「和らぎ睦び」、ゴールドの「職業倫理の向上」、青の「次世代への奉仕」を実現する手段として配置することによって、日出ロータリークラブ会長のテーマである三つの扉に収めることができました。

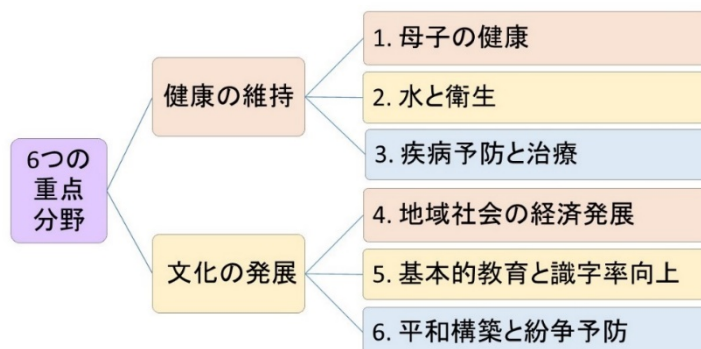
すなわち、「和らぎ睦びに」、1. クラブ奉仕と4. 国際奉仕を位置づけ、「職業倫理の向上」に2. 職業奉仕と社会奉仕を位置づけ、「次世代への奉仕」に5. 青少年奉仕を位置づけるという考え方です。

五大奉仕部門

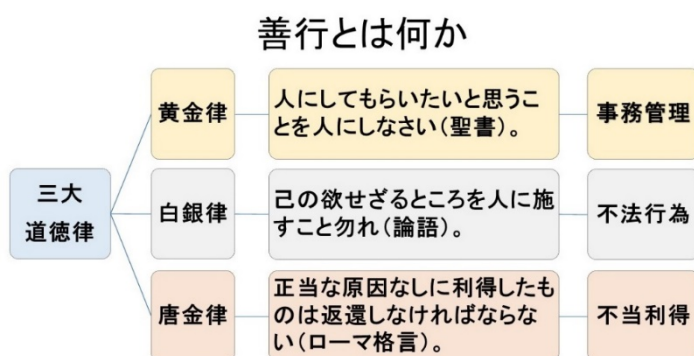


5. グローバル補助金における6つの重点領域

グローバル補助金の6つの重点分野については、健康の維持に関するものと、文化の発展に関するものに分類した後に、それぞれを赤、ゴールド、青の扉に分類することによって、三つの扉に収める工夫をしてみました。



6. 善行とは何か



日出ロータリークラブがロータリーの地区補助金を使って毎年行っている青少年の奉仕活動として、小中学校の生徒を対象に行っている「善行褒章」についても、そもそも善行とは何かということを、三大道徳律と言われている、ゴールデン・ルール（他者への貢献）、シルバー・ル

ール（被害の防止と責任）、ブロンズ・ルール（あるべき場所への返還）という視点から考え、三色の扉にまとめることができました。

今後は、善行褒章の基準を各学校に丸投げするのではなく、日出ロータリークラブの基準に基づいて褒賞することを各学校と緊密な連携の下で協議し、透明な基準に基づいて褒賞する努力をする必要があると感じました。

7. 子ども食堂の献立

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、相対的貧困（全世帯の所得の中央値の半分以下。日本の場合、所得（等価可処分所得）の中央値は、244 万円（2015 年調査）なので、その半分以下の年収 122 万円以下が相対的貧困となります）の家庭で育つ子供が、6 人に 1 人へと拡大しています。

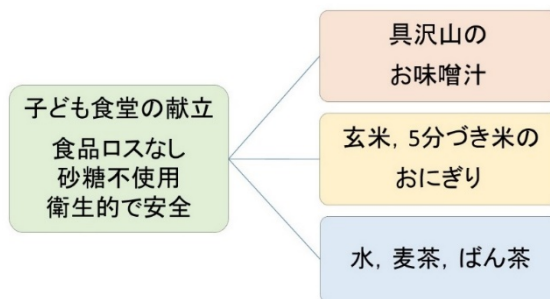
給食だけで一日の必要なカロリーを摂取している子どもたちがいます。さらには、給食を食べずに、姉妹兄弟に分け与えるために持ち帰る子供までいることが報告されています。

今年度の日出ロータリークラブの会長のテーマである、「和らぎ睦びて事を論じ、次世代への奉仕活動を実践しよう」に照らしても、貧困家庭にある子どもたちに、食事の支援をすることは重要な課題であると思います。

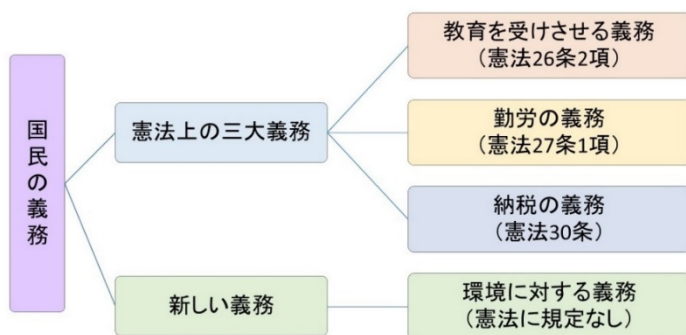
そこで、実現は、次年度以降になりますが、今年度から、「子ども食堂」の支援活動に関する調査活動を行うことにしました。

その際、「余ったお菓子を子どもに与える」というような安易な子ども食堂の経営を支援するのではなく、子どもの健康に留意した献立に基づいた子ども食堂の経営について考えてみることにしました。幕内秀夫『こどもをじょうぶにする食事は、時間もお金も手間もかからない』ブックマン

ン社(2019)という優れた著書に出会ったこともあり、今後の子ども食堂の献立方針を栄養学、食品ロスの観点からも考察して、三つの扉にまとめてみました。



8. 国民の義務



これまで、国民の三大義務（教育を受けさせる義務（憲法26条2項）、勤労の義務（憲法27条1項）、納税の義務（憲法30条））、および、新しい義務とされて、生成しつつある国民の環境に対する義務（ごみの減量など）は、国民一人ひとりの自己責任だと考えられてきました。

自己責任だと考えられてきました。

9. 国民の義務を実現するための政府（国・自治体）の責務

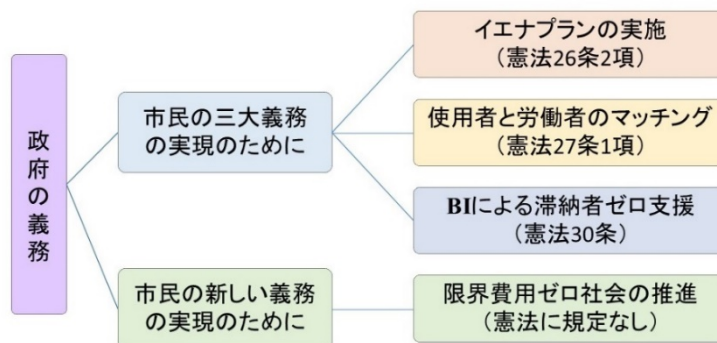
しかし、コロナ禍によって、教育を受け権利や勤労の権利が奪われる人々が増加し、これらの国民の義務を国民が履行するためには、それぞれ、教育を受けさせる環境が整っていること、勤労できる環境が整備されていること、一定の収入が確保されていることが前提条件となっているということが明らかになったように思います。

つまり、これまで、国民の「自己責任・自助」の問題とされてきた、国民の三大義務（教育を受けさせる義務、勤労の義務、納税の義務）が、コロナ禍の経験を通じて、その前提として、国は、国民一人ひとりに対して、適切な支援をすることが必要であり、それに対応して、国民は、国に対して、①教育を受けさせるための環境を整備することを要求する権利、②勤労できる環境を確保することを要求する権利、③納税するために必要な財政支出を要請する権利を有しているということが明らかにされたと思われます。

それを実現するための方法として、私は、赤、ゴールド、青の三色の機会の扉に即して、市民の三大義務を支援するためのプランを考えてみました。

教育については、小中学校の教員を最も進んだ教員

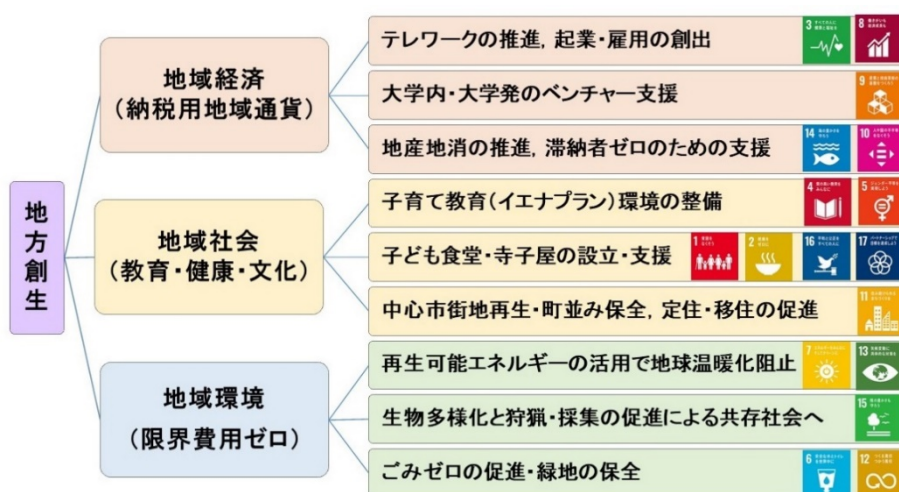
研修として知られているイェナプラン・オランダ研修に派遣すること、労働については、AI を活用して、使用者の要望と労働者の要求をマッチングさせるプラットフォームを構築すること、納税については、MMT 理論を活用して、BI を実施することを通じて、滞納者をゼロに導くことが重要ではないかという提案です。



10. 地方創生と SDGs におけるロータリークラブの役割

新型コロナウイルス感染症が終息に向かう兆しが見えない中で、私たちの暮らしをどのように設計していけばよいのかという視点から、日出ロータリークラブが今後、日出町の持続的な発展を実現していくためには、何をなすうのかを構想してみました。

それは、コロナ禍にめげない SDGs（持続可能な開発目標）の推進だと思います。もっとも、SDGs は、その目標が 17 もあって、理解が困難なのですが、地方創生という視点、および、赤、ゴールド、青という三つのゴールを①地域経済、②地域社会、③地域環境の継続的発展という視点からまとめて図示してみると、分かりやすくなると思います。



確かに、新型コロナウイルス感染症がいつ終息するか不透明ですが、その間も、日出ロータリークラブの活動を、休止することなく、リモート

会議システム等を利用することも視野に入れて、地域の発展のために奉仕活動を継続していきたいと、私は考えています。